

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	今井 亨
所属機関	国立がん研究センター中央病院
・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名	American Association of Cancer Research, Annual Meeting 2025, 米国癌学会
渡航期間	自 2025年4月25日 至 2025年4月30日
・研究内容 ・国際学会・会議内容	Investigation of TROP2 Expression and Immune Microenvironment in Ovarian Clear Cell Carcinoma

研究成果（要約：800字）

私は2025年4月25日から30日までシカゴで開催された American Association of Cancer Research, Annual Meeting に参加し、ポスターセッションでの発表を行いました。本研究のテーマである、卵巣明細胞癌（OCCC）は、東アジアに多くみられ、若年発症が多い稀少な卵巣癌です。化学療法抵抗性が高く、予後不良であるにもかかわらず、有効な治療法の開発は限られています。近年、TROP2 を標的とする抗体薬物複合体（ADC）の有効性が注目されていますが、OCCC における TROP2 の発現状況や免疫環境との関係は十分に解明されていません。そこで、2007～2024 年に国立がん研究センター中央病院で手術を受けた OCCC 患者 125 例を対象に、TROP2、ARID1A、PD-L1 の発現と病理学的特徴を解析しました。TROP2 陽性は 72.0%、PD-L1 CPS が 10 以上の症例は 49.6%という結果でした。TROP2 および ARID1A 発現は全生存期間と有意な関連を示しませんでした。CPS が 10 以上の症例では予後不良傾向が認められました（HR=2.92, p=0.06）。また、間質炎症が強い症例（HR=2.47, p=0.03）、Solid な組織構造を有する症例（HR=2.89, p=0.05）でも予後不良が示されました。TROP2 陽性かつ CPS 高値の患者は全体の 37.6%を占め、予後不良傾向を示しました（HR=3.17, p=0.13）。以上より、TROP2 および免疫関連マーカーの発現を有する OCCC 患者に対して、TROP2-ADC および免疫療法の併用が新たな治療戦略となる可能性が示唆され、今後、これらを標的とした医師主導治験についても計画しています。

ポスターセッションでは、私の発表にも多数各国の参加者が来てくださり、活発に議論を行うことができました。特に腫瘍微小環境に関する質問が多くあり、ICI との併用治療に関してさまざまな意見を聞くことができました。今回の学会参加で得た、経験および知見を生かして、卵巣明細胞がんの治療開発をさらに進めていきたいと決意を新たにしました。このような貴重な機会を助成いただき心より感謝申し上げます。